

学校保健

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

平成22年3月

No. 281

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>



(財)日本学校保健会



最優秀校の実践発表

未来へつなげる教育実践に

21世紀・新しい時代の健康教育推進学校表彰

—平成21年度表彰式を開催—



主な紙面

平成21年度表彰校一覧……………2
 平成22年度学校保健関連大会日程……………2
 シリーズ②「健康をささえる」
 学校栄養士の現場から……………6～7

(財)日本学校保健会は、平成21年度事業報告会、健康教育推進表彰式を2月18日、東京都文京区の日本医師会館で開催しました。(関連記事2～4ページ)

特集 学校保健と連携V
 学校での専門医の関わり……………8～11
 ノロウイルス1月から急増……………14
 学校保健ポータルサイト実用例……………13

中・高校生に多い麻疹

～はしかにさせないために～

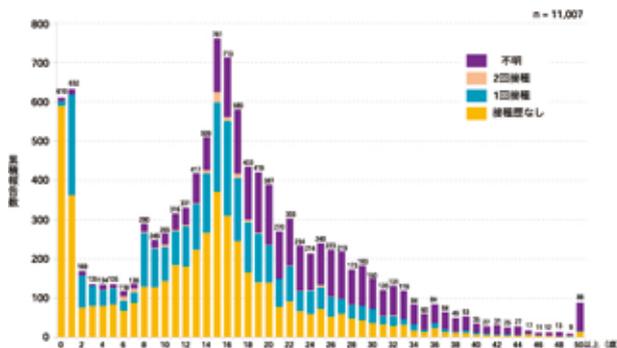


図1 麻疹累積報告数のワクチン接種歴別年齢分布(2008年)
(国立感染症研究所感染症情報センターHPより)

2008年から5年間の措置としてはじまった麻疹風しんワクチンの第3期(中学1年生)、第4期(高校3年生)定期予防接種。しかし、麻疹では特に中・高校生の患者が多く報告されています(図1)。接種率では都市部ほど低い傾向にあります。(関連記事5面の図参照)

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	PTA	会 長	副会長	

【お願い】 学校保健委員会などの参考に学校医等の方々へもご回覧ください。

こころとからだ **健康で生きていく力の育成のために**

平成21年度 **健康教育推進学校表彰校**

- 最優秀校 6校**
- 山形県 飯豊町立第二小学校
 - 群馬県 高崎市立中央小学校
 - 埼玉県 鳩ヶ谷市立辻小学校
 - 栃木県 真岡市立山前中学校
 - 青森県 県立青森高等学校
 - 岐阜県 岐阜市立岐阜特別支援学校
- 優秀校 9校**
- 茨城県 日立市立大沼小学校
 - 群馬県 富岡市立富岡小学校
 - 東京都 足立区立上沼田小学校
 - 富山県 黒部市立三日市小学校
 - 熊本県 山都町立清和小学校
 - 広島市 広島市立可部小学校
 - 神奈川県 川崎市立宮前平中学校
 - 富山県 小矢部市立津沢中学校
 - 静岡県 県立焼津水産高等学校
- 奨励校 1校**
- 埼玉県 川口市立並木小学校
- 優良校 87校**
- 岩手県 二戸市立石切所小学校
 - 岩手県 八幡平市立寄木小学校
 - 山形県 山形市立第八小学校
 - 山形県 遊佐町立藤岡小学校
 - 福島県 郡山市立行健第二小学校
 - 福島県 喜多方市立姥堂小学校
 - 茨城県 水戸市立上大野小学校
 - 茨城県 桜川市立坂戸小学校
 - 栃木県 宇都宮市立上河内西小学校
 - 群馬県 藤岡市立美土里小学校

- 埼玉県 川口市立原町小学校
- 千葉県 習志野市立谷津小学校
- 千葉県 松戸市立八ヶ崎第二小学校
- 東京都 豊島区立目白小学校
- 東京都 渋谷区立千駄谷小学校
- 神奈川県 厚木市立森の里小学校
- 富山県 氷見市立上庄小学校
- 石川県 金沢市立三馬小学校
- 福井県 福井市清水東小学校
- 福井県 越前市国高小学校
- 山梨県 増穂町立増穂南小学校
- 岐阜県 大垣市立宇留生小学校
- 静岡県 浜松市立相生小学校
- 愛知県 知多市立新知小学校
- 愛知県 吉良町立津平小学校
- 滋賀県 栗東市立大宝小学校
- 京都府 福知山市立中六人部小学校
- 京都府 舞鶴市立朝来小学校
- 大阪府 寝屋川市立国松緑丘小学校
- 大阪府 貝塚市立中央小学校
- 兵庫県 香美町立射添小学校
- 奈良県 香芝市立二上小学校
- 鳥取県 鳥取市立中ノ郷小学校
- 島根県 益田市立都茂小学校
- 岡山県 備前市立三石小学校
- 岡山県 和気町立石生小学校
- 広島県 竹原市立竹原西小学校
- 広島県 廿日市市立玖島小学校
- 香川県 丸亀市立郡家小学校
- 香川県 三豊市立比地大小学校

- 福岡県 上毛町立西友枝小学校
- 長崎県 壱岐市立石田小学校
- 長崎県 長崎市立西北小学校
- 長崎県 西海市立平島小中学校 (併)
- 熊本県 山鹿市立千田小学校
- 沖縄県 石垣市立八島小学校
- 横浜市 市立東台小学校
- 京都市 市立朱雀第一小学校
- 広島市 市立安北小学校
- さいたま市 市立岸町小学校
- 新潟市 市立竹尾小学校
- 岩手県 宮古市立田老第一中学校
- 宮城県 山元町立坂元中学校
- 福島県 郡山市立郡山第五中学校
- 東京都 江東区立深川第四中学校
- 東京都 足立区立第一中学校
- 石川県 小松市立中海中学校
- 福井県 越前市武生第一中学校
- 長野県 松川町立松川中学校
- 岐阜県 瑞浪市立瑞陵中学校
- 静岡県 浜松市立湖東中学校
- 愛知県 弥富市立弥富北中学校
- 岡山県 高梁市立備中中学校
- 熊本県 熊本市立芳野中学校
- 名古屋市 市立黄金中学校
- 京都市 市立中京中学校
- 神戸市 市立本多聞中学校
- さいたま市 市立上大久保中学校
- 青森県 県立中里高等学校
- 秋田県 県立大館工業高等学校
- 石川県 金沢市立工業高等学校
- 岐阜県 県立岐阜城北高等学校
- 滋賀県 県立能登川高等学校
- 大阪府 府立芦間高等学校
- 香川県 県立高松西高等学校
- 福岡県 県立鞍手竜徳高等学校
- 千葉県 市川市立須和田の丘支援学校

平成22年度全国及び各地区ブロック大会日程予定 (平成22年2月15日現在)

4月15日(木)	全国学校保健会事務担当者連絡会	東京都港区
5月16日(日)	第61回指定都市学校保健協議会	大阪府大阪市
7月15日(木)	第32回近畿学校保健連絡協議会	滋賀県大津市
8月5日(木)~6日(金)	第43回東北学校保健大会	山形県山形市
8月9日(月)~10日(火)	第10回九州地区健康教育研究大会	鹿児島県鹿児島市
未定	第52回全国学校保健主事研究協議会	
8月19日(木)	第61回関東甲信越静学校保健大会	茨城県水戸市
8月19日(木)~20日(金)	平成22年度全国養護教諭研究大会	徳島県徳島市
8月26日(木)~27日(金)	第55回中国地区学校保健研究協議大会	山口県山口市
10月26日(火)	第31回東海ブロック学校保健研究大会	愛知県名古屋市
10月28日(木)~29日(金)	第74回全国学校歯科保健研究大会	茨城県つくば市
11月18日(木)	第60回全国学校薬剤師大会	群馬県前橋市
11月18日(木)~19日(金)	第60回全国学校保健研究大会	群馬県前橋市
11月19日(金)	平成22年度全国学校保健協議大会	群馬県前橋市
11月20日(土)	第41回全国学校保健・学校医大会	群馬県前橋市
11月28日(日)	第59回北海道学校保健研究大会釧路大会	北海道釧路市
12月2日(木)~3日(金)	平成22年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	東京都
平成23年2月17日(木)	平成22年度日本学校保健会事業報告会	東京都文京区
2月17日(木)	平成22年度健康教育推進学校表彰式	東京都文京区
2月25日(金)	全国養護教諭連絡協議会第16回研究協議会	東京都港区

平成21年度

21世紀・新しい時代の 健康教育推進学校表彰

最優秀校紹介



健康づくりは人づくり

～家庭と地域とむすび愛 ひとりひとりのプランニング
未来にはばたけ二小のげんきっ子！！の育成～

山形県飯豊町立第二小学校

家庭・地域とともに健康づくりに取り組み、生活リズム改善・食育や「ばわーセミナー」(肥満児指導)を健康教育サポーター(県立米沢女子短大・バランスボール運動指導者)と連携し未来への力になる『げんきっ子』を育てています。

自ら考え進んで健康づくりに 取り組む児童の育成

～「楽しく食べて歯も元気」・
「食べて動こう～自分再発見！～」を通して～

群馬県高崎市立中央小学校

健康教育スローガンの実現を目指し、児童保健委員・給食委員・体育委員などが中心となり、日常的な活動を継続しています。年5回の学校保健委員会では、話し合い活動を充実させ、議題を身近なこととして考えられるようにしています。



進んで健康な生活を創る児童の育成

—食育を核として学校・家庭・地域が一体となってすすめる健康教育—

埼玉県鳩ヶ谷市立辻小学校

本校は「食育」を基盤として子どもたちの生活習慣の改善や体力向上を目指した研究を進めています。

食育カリキュラム作成、栄養教諭等による食育の授業を通して、自ら進んで健康的な生活に取り組む児童の育成を図っています。



食育の授業(偏食指導)

「健康で気力の充実した生徒」の育成

～基本的生活習慣の確立を目指して～

栃木県真岡市立山前中学校

中学生期は、心身共に急激な発達・発育がみられる重要な時期。そこで、家庭・地域社会の支援を得て、生徒一人一人が健康的な生活の向上に必要な資質や能力を身につけられるような健康教育を全職員で実践しています。





21世紀 人を育み 地域へ 世界へ

～積極的に健康管理ができ、社会的な健康づくりにも
取り組む生徒を育む健康教育の推進～

青森県立青森高等学校

綱領「自律自啓・誠実勤勉・和協責任」のもと、郷土や国際社会の発展に貢献できるよう、健康でたくましい体と豊かな心を育む教育の推進に、教育活動全体を通して組織的・総合的に取り組んでいます。

自立と社会参加につながる 健康教育の充実

～安心安全な環境の中で、誰もが健康でたくましく～

岐阜市立岐阜特別支援学校

『げんきで なかよく がんばる』をあいことばに、「安心安全な教育環境づくり」「保健指導の充実」「運動習慣の形成」を柱として、自立と社会参加につながる健康教育の充実に取り組んでいます。



この学校表彰の最優秀校・優秀校の実践は「21世紀・新しい時代の健康教育推進学校の実践 ー第8集ー」として本会より発行(3月予定)します。ご活用ください。



審査を終えて

審査委員会小委員長 村田 光範

本年度の審査対象校は、小学校61校、中学校20校、高等学校10校、特別支援学校2校の計93校で、昨年度の91校を上回る過去最高を記録した。しかし、推薦のなかった県と政令指定都市が少なくなかったことから、本委員会としては推薦母体である関係学校保健会へのさらなる積極的な働きかけが必要だと考えている。

審査は、実施要項に従い書類による1次審査と学校訪問による2次審査によって、優良校、優秀校、最優秀校及び協賛社賞(奨励校)を選考した。

最優秀校には、小学校が3校、中学校と高等学校は各1校、特別支援学校1校の計6校が選ばれた。また、優秀校は、小学校6校、中学校2校、高等学校1校の9校であり、小学校1校が奨励校になった。

平成21年度は学校保健法が改正されて学校保健安全法として施行された。この改正によって学校保健の面では、第7条に保健室、第8条に健康相談、第9条に保健指導が明記されたことは画期的である。また、学校給食法の一部改正が行われ、学校給食を活用した食に関する指導の充実と栄養教諭の役割も明記され、これも平成21年度から施行されている。さらに、幼稚園から高等学校までの各教科の学習指導要領も改訂され、そのなかに健康教育の重

要性が大きく組み込まれている。

以上のように学校における健康教育が制度的にも整備され、その重要性が改めて認識された年でもあった今年の審査を通じて感じたことは、児童生徒が自らの健康づくりを行うための指導と支援に力が注がれていること(高崎市立中央小学校)、学校、家庭、地域が一体となって大きく児童生徒を育てていること(飯豊町立第二小学校)、食を通じて生活習慣の改善と体力づくりに取り組んでいること(鳩ヶ谷市立辻小学校)、自他の生命を尊重することを基本に美しい学校づくりに励めていること(真岡市立山前中学校)、生徒自らが文武両道を旨として心と体を鍛えあげていること(青森県立青森高等学校)などである。とくに岐阜市立岐阜特別支援学校は児童生徒の体力づくりに三輪車乗りや温水プールなどを活用した活動を展開していることに感銘を深くした。また、長年にわたる優れた健康教育の実績が評価されて川口市立並木小学校が奨励校となった。

21年度は全国が新型インフルエンザに振り回されたといってもよいが、このことが学校保健と学校安全に残した多くの教訓を学び、それを生かすことも重要だといえる。

最後に児童生徒の健康教育に関わるすべての方々が、この表彰事業にいっそうご協力くださることをお願いする次第である。

今後の継続と更なる発展を期待

第3期
第4期

定期予防接種を

はしかゼロへ!!

麻疹・風しんは、抗インフルエンザ薬のような特効薬がなく、治療は自分の免疫力と体力に任せるしかありません。栄養状態の不良や免疫抑制状態（基礎疾患や投薬）などで重症化する可能性が高く、重篤な後遺症を残したり、死にいたる場合もある疾患です。

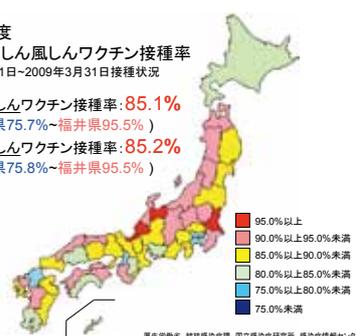
世界保健機関（WHO）では世界の地域ごとに麻疹排除の目標時期を設定しており、日本は「2012年までにはしかをゼロに！」を掲げているところです。

麻疹・風しんを予防するには、ワクチン接種が有効な手段です。国立感染症研究所感染症情報センターでは中学1年生と高校3年生が対象になる第3期、第4期の定期予防接種を勧めています。

（図：国立感染症研究所感染症情報センター平成20年度麻疹風しん定期予防接種率最終評価結果）

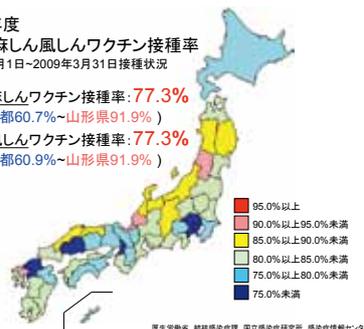
2008年度
第3期麻疹風しんワクチン接種率
2008年4月1日～2009年3月31日接種状況

第3期 麻疹ワクチン接種率: **85.1%**
(福岡県75.7%～福井県95.5%)
第3期 風しんワクチン接種率: **85.2%**
(福岡県75.8%～福井県95.5%)



2008年度
第4期麻疹風しんワクチン接種率
2008年4月1日～2009年3月31日接種状況

第4期 麻疹ワクチン接種率: **77.3%**
(東京都60.7%～山形県91.9%)
第4期 風しんワクチン接種率: **77.3%**
(東京都60.9%～山形県91.9%)



監修／(社)日本医師会・(財)日本学校保健会
推薦／(社)日本小児科医会

寄贈

問合せ／TEL. 0467-23-9188
「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」事務局

創刊20年記念

「まんが&アイデア」コンクール入選作を掲載!

漫画ヘルシー文庫は、子どもたちの健康を願う大塚製薬(株)が毎年、刊行しています。3月末に全国の小学校、特別支援学校、国立図書館などへ寄贈されます。

「みんなみんな地球っ子」
〜環境と健康の巻〜
OTSUKA 続まんがヘルシー文庫3

第3巻は、楽しみながら環境保全への関心と理解が深められる内容です。「漫画ヘルシー文庫」創刊20年を記念して全国の小学生から募集した「まんが&アイデアコンクール」入選作と、やなせたかし氏ちばてつや氏ら11人の漫画家とのコラボレーションが実現しました。



小学校高学年の女の子対象

「わたしたちのカラダと下着のはなし」さしあげます。

ワコールでは小学4年生～中学2年生の女の子と、その保護者の方を対象に「ツボミスクール」という下着教室を開催しています。『Girl's note わたしたちのカラダと下着のはなし』は、そこでお話ししている内容をまとめた小冊子。体型変化や下着に関する情報を提供させていただいていますので、初経指導や二次性徴等の指導時に是非お役にしてください。

●お申込みはこちらへ www.wacoal.jp/company/tsubomi/ ツボミスクール

- セキュリティ等の関係で上記HPに接続不可の場合は下記フリーダイヤルでお問い合わせください。
- 毎月1日より、翌月中旬配送分のお申し込みを受け付けます。
- 予定数を越えた場合は、翌月以降にお届けとなります。お急ぎの場合は、お電話でお問い合わせください。

（お問い合わせ先）ツボミスクール運営事務局「Girl's note」係 **フリーダイヤル 0120-203-248**（営業時間 平日 9:30～17:30）

教材用下着サンプルセットの貸出しについてもご相談ください。



理解の推進のため、地場産物の活用、郷土食を取り入れるなど献立内容の工夫・充実を図り、各教科・領域においては学校給食を「生きた教材」として活用した指導の実践、学校・家庭・地域が連携する等が重要になっており、研究集録はこれにあわせた内容になっています。

1) 食に関する指導

ア. 「食に関する指導の全体計画」「年間指導計画」の作成例

食育を学校全体で推進するにあたり、この計画は基本となるものなので、全学校が作成できるように例を示しました。

イ. 各教科・領域での指導例

各地区で行った教科・特別活動等の研究授業を指導案の提示だけでなく事前指導から始まり、授業終了後の研究協議、指導助言の内容まで収められ大変参考になっています。

2) 衛生管理

学校給食は「安全・安心」が第一であり、衛生管理は栄養士の重要な職務の一つです。各地区で小グループによる研究授業方式で研修を重ね、衛生管理の徹底を図っていますが、適切な方法の検討を行い、その活用内容、調査方法、考察、反省、次年度への課題等を提示しています。

3) 家庭・地域との連携

県保健医療部食品安全課の実施事業「地域に根ざした食の安全・安心体験学習」の依頼を受けた小学校の取組の内容を紹介し、地域・学校・家庭の連携がスムーズに実施するための参考になるよう、細かな部分も含めた報告がなされています。その中の事業の一つとして、親子料理教室があり、その際に地域農産物を使用し、生産農家の方の講話を聞く機会を設け、地域・保護者との交流を深め成果があがりました。

「ふるさと献立」への取り組み

戸田市では、「食育につながる給食づくり」を目標に、給食そのものが教材になるような献立作成を行っています。その一環として、戸田市の給食センター方式校(平成19年度:小学校6校、平成20年度:小学校6校、中学校6校)、単独調理場方式校(平成19年度:4校、平成20年度:5校)では、月に一度統一メニューで、全国の郷土料理を紹介する、「ふるさと献立」の実施を始まりました。

《目的》「ふるさと献立」を通して、全国の郷土料理の味や歴史、その地域の特産物を伝える。

《実施期間》平成19年9月から開始、47都道府県実施終了まで

《実施》単独調理校

年月	献立					
	県	主食	主菜	副菜	汁物	その他
平成19年9月	兵庫県	たこめし	たいの塩焼き	黒豆の4色和え	ちよぼ汁	
10月	栃木県	ごはん	しもつかれ	かんぴょうりきんぴら	法度汁	
11月	埼玉県	お茶ごはん	黒豚の生姜焼き	ねぎめた	呉汁	
12月	秋田県	山菜おこわ	ハタハタのフライ	あじやら	きりたんぼ汁	
平成20年1月	東京都	深川飯	ちゃんこスープ	大学芋		
2月	岩手県	ごはん	鮭の南蛮揚げ	菊の和え物	ひつつみ	
3月	富山県	きびおこわ	ふり大根	やちやら	だご汁	
5月	長崎県	長崎ちゃんぽん	浦上そぼろ			カステラ
6月	愛知県	味噌カツ丼				ういろう
7月	沖縄県	ごはん	ゴーヤチャンプルー		もずくスープ	ハイナップル

《実施》給食センター

年月	献立					
	県	主食	主菜	副菜	汁物	その他
11月	埼玉県	ごはん	ポークカレー	小松菜の二色和え	呉汁	
12月	秋田県	山菜おこわ	はたはたのフライ	あじやら	だまご汁	ポトルソース
平成20年1月	東京都	五目ご飯	ポークカレー		ちゃんこスープ	学校フルーツゼリー
2月	岩手県	ごはん	鮭の南蛮揚げ	きゅうりわかめのかき揚げ	ひつつみ	ポトルソース
3月	富山県	ごはん	マスの梅煮焼	やちやら	だご汁	
5月	長崎県	ホト中華めん	えびと野菜の包み蒸し餃子		ちゃんぽんめん	学校カステラ
6月	愛知県	ごはん	みそカツ②	二色和え	白玉汁	
7月	沖縄県	ごはん	ゴーヤチャンプルー	豚の肉	もずくのスープ(学校)	

献立作成の取組例

4) 「生きた教材」としての献立作成

学校給食を生きた教材として食育を進めるにあたり、献立内容を具現化する手だての研究をし、実施されています。

以上のような事項を研究の重点項目として、毎年研究を重ねています。

3. まとめ

日本の将来を担う子どもの生涯にわたる健全な食生活の実現と人間形成を図るため、全栄養士が一丸となり、力を合わせて取り組んでいくことが大きな成果につながります。役員と地区代表者と会員との相互の連携を強くし、会が活性化するような運営にし、大きな目標に向かって、一步一步着実に進んでいきたいと思っています。

活用ください 学校保健ポータルサイト

◆ ダウンロードできます

- ・ 学校生活管理指導表
- ・ 学校生活管理指導表 (アレルギー疾患用)
- ・ 医薬品に関する教育教材「医薬品と健康 (高校生用)」ほか

◆ いつも情報提供

- ・ 健康最新ニュース、イベントカレンダー、テーマ別注目記事等

◆ そのほか、健康ミニ検定や新刊本の紹介など



平成 21 年度

特集 学校保健と連携 V

多様化社会に求められる学校保健のこれから

学校保健における専門医の必要性

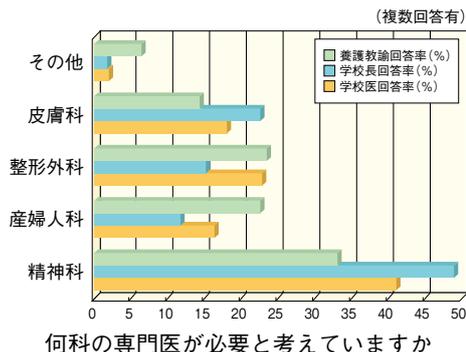
日本学校保健会専務理事 雪下 國雄

近年の社会状況や人々の生活様式の変化に伴い、学校における児童生徒等の健康と安全に関する課題は多岐におよび、新たな課題も生じてきた。

社団法人日本医師会の調査より、最近の学校保健における学校医と養護教諭を悩ましている課題を多い順に列記すると、①心の問題、②性の問題、③スポーツ障害、④アレルギー、アトピーの問題、⑤薬物乱用の問題、⑥保健体育・部活動時のケガ等が挙げられている。しかし、現在の学校医制度では、小児科医、内科医を主体とした内科校医と耳鼻咽喉科校医、眼科校医のいわゆる三科体制により実施されており、上記の新たな専門的複雑な問題に対して現在の三科校医体制ではすべてに対応することは不可能で、各科の専門医の協力がぜひとも必要になってきている。

そこで、各学校の学校長、養護教諭、学校医に何科の専門医が必要かを調査から見ると、精神科、産婦人科、整形外科、皮膚科の各専門医の参加が圧倒的に多く望まれている。(図参照)

現実の問題としては、専門医の数は極めて少なく、各校への単独配置は困難で、その対応には、



例えば四科の専門医でチームをつくり中学校区等の学校群に配置するなどの工夫が必要である。また、各専門医には学校医としての自覚を持って内科校医、養護教諭との連携のもとに学校保健に専門的知識を発揮して参加されることが望まれる。

今回の特集では今年度テーマの締めくくりとして、日本医師会学校保健委員会でご活躍の四科の先生方に学校保健におけるそれぞれの専門医の必要性や抱負など学校との連携について寄稿していただいた。

皮膚科専門校医（専門相談医）として

日本臨床皮膚科医会学校保健委員会委員長 大川 司

皮膚科医も学校保健に積極的に関わっていくことが必要であるとして、平成5年、日本臨床皮膚科医会（以下、日臨皮）では学校保健委員会（当時、学校保健推進委員会）を立ち上げた。しかし、学校保健活動は既存の3科による校医が中心となって行っており、皮膚科医が活動に参加できる機会は、平成14年の日臨皮調査によれば前橋市、広島市安佐地区、大阪市、諫早市の4地区のみであり、限定的なものだった。

平成11・12年に神奈川県医師会が実施した調査により、近年の児童生徒、教職員を取り巻く環境の変化に伴い、より専門性の高い学校保健への取り組みが必要になってきているとして、皮膚科医もアトピー性皮膚炎、アレルギー疾患への対応が望まれていることが明らかとなった。それを受けて、平成16年、文部科学省は都道府県教育委員会へ委嘱する形で事業を開始した。われわれ皮膚科医にとっても、社会貢献活動の一つとしての皮膚科学校保健活動はきわめて重要な責務であると考え、専門校医

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
事業参画地域数	19	28	34	36	31
事業参画率	40%	60%	72%	77%	66%
活動内容	専門校医（専門相談医）学校派遣		15	14	13
	教職員研修会・講演会		19	19	21
	PTA研修会・講演会		7	10	12
	その他の活動※		6	7	5

※電話相談、新聞・「皮膚の日」講演会を媒体とした啓発活動など
平成16～19年度：「学校・地域保健連携推進事業」
平成20年度：「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」
日本臨床皮膚科医会学校保健委員会調べ

文部科学省事業への皮膚科の参画状況と活動内容

（専門相談医）として事業の一翼を担うべく全国的な事業参画を目指して活動を行ってきた。

活動を開始してわかったことは学校現場における皮膚疾患、皮膚の障害に対する問題意識には地

域によって温度差が存在することであり、まずは皮膚科医の側から養護教諭をはじめとした教職員、PTAに対して積極的に研修会・講演会を通じて問題点を共有していく必要があったことである。また、皮膚科医にとっても学校保健活動の経験が浅く、指導・助言する際に用いる資料・教材が整っていないことも明らかになった。

日臨皮学校保健委員会では事業参画を推進していくとともに、皮膚科医による活動が円滑に行えるように健康教育用教材の作成にも着手し、現在までに改訂版も含め5編の教材を作成した。また、学校現場で混乱を招いてきた皮膚の学校感染症に対する学会の統一見解を取り纏めて公表し、学校における紫外線対策の指針作りにも、現在、取り組んでいる。表に文部科学省事業への皮膚科の参

画状況と活動内容を示したが、「学校・地域保健連携推進事業」の最終年度であった平成19年度には全国47都道府県中36地域(77%)で事業参画を果たし、これらの地域では教職員、PTAを対象とした研修会・講演会を数多く開催した。皮膚科専門校医(専門相談医)の学校への派遣も年間12件行われた地域もあるなど、徐々にではあるが活動を拡げてきている。

このように、皮膚科医にとっての学校保健活動はまだ発展途上ではあるが、成果が上がりつつあるものと思われる。平成20年には、日臨皮だけでなく、日本小児皮膚科学会、日本皮膚科学会の皮膚科3団体が連携して活動していく体制を整えた。これからも学校現場の要望に答えるべく活動の拡充を図っていきたいと考えている。

産婦人科医による学校での性教育

総合母子保健センター愛育病院 産婦人科部長
安達 知子

発達段階に応じた児童生徒に対する「生命と性の健康教育」は、学校(教諭、養護教諭)、家庭(父母)と産婦人科医が連携することによって、より効果的に行うことができる。

学校や家庭で主体的に行うテーマであっても、より知識や技術を必要とするものについては、職員や父母は、公開講座や性教育指導セミナー(毎年1回日本産婦人科医会主催)、あるいは学校で職員や父母対象の産婦人科医らによる性教育の講習の場を設けていただき、その機会に学習していただきたい。

産婦人科医は生命の誕生に直接関する専門家としてばかりでなく、日常臨床の現場から数々の子ども

たちが巻き込まれる性および生殖器に関連したトラブル症例を経験しており、女性の生涯の健康という視点からも、子どもたちに健康教育を直接行うことによって、大きなインパクトを与えられる。

今までの性教育に対する中学生、高校生の評価は、財団法人日本性教育協会が2007年に報告しているが、これによると「役に立つ」と評価した割合は中学生39.2%、高校生53.2%と低かった。

現在文科省の指導要綱では、性的接触については中学3年生に、避妊教育は高校生になってからである。しかし、女子の性交経験が中学2年生5%、中学3年生10%に認められ、性的接触によって

発達段階	望ましい教育テーマ
a 幼稚園	①生命の大切さ
	②友達との共同作業
	③身体の発育
	④赤ちゃんとの触れ合い
	⑤友達との触れ合い
	⑥動物の温かさを触れて確かめる
b 小学校 低学年	①相手を思いやる(老人・障害者との触れ合い)
	②自尊心の育成<小~中学生を通し継続>
	③生命の大切さ、かけがえない生命
	④健康(食べる、寝る、手を洗う、うがいをする)
c 小学校 中学年	①生命の誕生
	②男の子と女の子の身体の違い<低学年~という意見も>
	③男女の性器<低学年~という意見も>
	④二次性徴(乳房・恥毛・身長伸び・月経発来・声変わり・精通)<中学年~高学年を通し継続>
	⑤大人との関わり方(ネットなどの利用について)
d 小学校 高学年	①二次性徴(乳房・恥毛・身長伸び・月経発来・声変わり・精通)<中学年~高学年を通し継続>
	②思春期の心理と男女交際
	③性情報の正しい選択の仕方
	④性的接触
	⑤性感染症とその予防、HIV感染経路、HPVと子宮がんの関係<高学年~中1を通し継続>
	⑥性犯罪被害の防止<低学年~という意見も>
	⑦友達との関わり方

発達段階	望ましい教育テーマ
e 中学校 1年	①性感染症とその予防、HIV感染経路、HPVと子宮がんの関係<高学年~中1を通し継続>
	②性交、妊娠、避妊、マスターベーション<高学年~という意見も>・性交、妊娠、避妊については、中学の期間を通して継続
	③月経のトラブルとその対処法
f 中学校 2年	①人工妊娠中絶
	②援助交際の防止<高学年~という意見も>
	③デートDV性犯罪被害の防止
g 中学校 3年	①結婚
	②妊娠、出産、子育て<中1~という意見も>
	③性の悩み
	④同性愛、性同一性障害
h 高校 1年	①性感染症・次世代への感染と影響
	②不妊症
	③高齢妊娠、妊孕性
i 高校 2年	①人間尊重
	②男女交際
	③全ての子供が望まれて生まれてくるために
j 高校 3年	①リプロダクティブ・ヘルス全般
k その他	①小学校中学年②以上は、どんな話をするのか、事前に教職員から保護者にも説明が必要
	②小学校高学年と中学1年時には産婦人科医からの講習が望まれる

発達段階に応じた性教育の課題

発生する子宮頸がんの予防ワクチン接種が若年女性を対象に始まろうとする現状を考えれば、性教育のカリキュラムは現在よりも前倒しに行われる必要がある。表に示した「発達段階に応じた望ましい性教育の課題（案）」（日本医師会）を参考にしていきたい。また、表のテーマから、小学校高学年、中学1-2年、高校1年生に対しては、産婦人科医から直接子どもたちに教育を行うこと

がより有効である。

なお、何をどこまで、どのように教えていくかについては、産婦人科医の認識と学校側の要望とが折り合わず、産婦人科医のモチベーションが低下することも多い。産婦人科医と学校、家庭との共通の認識は重要で、ぜひ学校医に上手にアレンジしていただき、より有効な教育によって、子どもたちが健やかに成長していくことを願っている。

整形外科医の立場より

日本臨床整形外科学会 学校保健検討委員会理事
柴田 輝明

現在、学校保健法の枠組みの中で学校医だけでは対応できない疾病が学校の児童、生徒に蔓延してきている。1958年（昭和33年）に制定された学校保健法の第1条（目的）には「学校における保健管理に関して必要な事項を定め、児童、生徒、職員の健康の保持増進を図り、もって学校教員の円滑な実施とその成果の確保に資する目的とする」とある。その目的達成のため、就学時の健康診断（第4条）とその事後措置（第5条）、児童生徒、学生及び幼児の定期健康診断（第6条）臨時健康診断（第8条2項）及び事後措置（第9条）が現定されている。これら健康診断の方法及び技術的基準については、同法施行令、施行規則、局長通達により細目が示され、これにより学校医の職務として健康診断が実施されている。

定期健康診断は学校医の職務の中で最重要の項目である。学校においても学校長以下、養護教諭、教職員の協力によって、実施される。特別活動の中の学校行事と位置づけされる。さて、整形外科領域では近年、児童生徒の中でかたよったスポーツのし過ぎやスポーツの過度による傷害、一方運動不足による生活習慣病、運動器機能の低下してきている児童生徒が増加し、その二極化の傾向に

あるといわれている。「運動器の10年」日本委員会では、平成17年度より北海道、島根、徳島、京都グループを中心として「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」を開始した。平成19年度から埼玉県では小学校就学時健康診断時に運動器検診を日本で初めて導入し、以後毎年行っている。平成21年度は更に小学校5年生に対して県内2校で運動器検診を行ったが、そのデータをまとめ、結果報告し、その事後措置とその対策も検討した。その結果今後、定期健康診断時に運動器検診を取り入れる必要性を感じている。

そして向後、学校医の役割は疾病の多様化により、専門医に頼らざるを得ない。その専門医と学校養護教諭や学校医との密なる連携の必要性を強く感じる。先に述べたようにスポーツ傷害や運動不足による生活習慣病や運動器機能低下の二極傾向にある児童生徒の体の予防及びその治療を含めて、その安全を考えるためには、学校は養護教諭及び学校医だけでなく、整形外科専門医との連携づくり体制の整備・充実をなすべきと考える。又、整形外科専門医の中にはスポーツドクターとしての役割も担えるドクターがいる点も強調したい。



小学校就学時運動器検診1



小学校就学時運動器検診2



小学校5年生運動器検診1



小学校5年生運動器検診2

専門医(精神科)と学校との連携

東京大学医学部附属病院こころの発達診療部
金生 由紀子

少子化が進んでいるにもかかわらず子どものこころの問題は増加の一途をたどっている。知的に遅れがなくても精神機能の発達に不均衡のある子どもが少なからず存在するとの認識から発達障害者支援法や特別支援教育という制度が整備されて、実は以前からあった問題がいつそう明らかになってきたという面もあるだろう。学校に精神科

医の新たな視点を取り入れることでより良い対応ができればと思うのだが、実際は必ずしも容易ではない。人とのかわり方とか注意の持続や配分などに困難があり学校生活に適応しにくい子どもについて、脳機能の発達の障害を基盤に持つ可能性を考慮せずに気力で乗り切れるはずとしてとにかく行動の統制を目指す教員もまだ少なくないよ

うに思われる。一方で、発達障害の可能性を感じると、診断と治療、特に薬物療法を早急に求めて、その子どもの特性に合わせた教育をあきらめがちな教員もいるように感じられる。本人及び保護者の気持ちを考慮しつつ学校と精神科医が連携を深めて、子どもの精神発達の不均衡を念頭に置いた上でよい点を伸ばす教育を進めていくことが望まれる。

このように子どもの特性を踏まえて教育を行うという発想は、発達障害のみならず子どものメンタルヘルス全般においても大切なことと思われる。一般に認知や情緒の発達の経過をみるといくつか節目となる時期があり、そこで大きく飛躍することもあれば躓きを生じることもある。思春期が代表的だが、小学校中学年から高学年にかけても多側面からものごとを見られるようになる大きな変化の時期である。そのような時期にいくつかの要因が重なると、自信を失って不安や抑うつ、時にはイライラがつのり不登校、自傷を含めた攻撃的な行動などに発展することがある。関連する

要因としては、本人の体質や性格、それまでの生育過程で身につけてきたこと、その時の生活環境などが考えられ、しかもそれらが絡み合うことがしばしばである。子どもが生活する上で家庭と並んで学校は重要な生活環境であり、大きな影響を与える。こころの問題に早期に介入して深刻化を回避する上でこのような認識に立って検討することは重要である。同時に、すべてを「気の持ちよう」としたり、すべてを「病気のせい」としないことが大切であり、そのためにも学校と精神科医が日ごろから意見交換して視点の共有ができていくことが望まれる。

とはいえ、児童精神科医の数は少なく、一般の精神科医を含めたとしてもなかなか学校と連携する余裕が見出せないのが実情である。また、学校の方も大きな問題がなければあえて連携しなくてもという姿勢があるような気がする。しかし、こころの問題を予防して健やかなこころの発達を促進する上でも、学校と精神科医の連携はこれまで以上に求められていると言えよう。

主催／財団法人日本学校保健会
共催／くすりの適正使用協議会

「医薬品に関する教育」保健教育指導者研修会 将来の健康につながる教育に向けて

財団法人日本学校保健会では今年度、全国4箇所（東京・大阪・名古屋・福岡）で医薬品に関する教育の研修会を開催、医薬品の教育が中学校の新しい学習指導要領に加えられた背景や実践事例など6つの講演を行い、総数958名の参加がありました。

【会場アンケートより】

各会場でアンケートを実施したところ、68%（655名）の回答が得られました。

その中で、これまで医薬品に関する教育の実施経験を質問したところ、「実施したことがある」と回答した保健体育教諭・養護教諭は16%、「実施したことはない」は83%でした。自由回答による「実施したことはない」の理由は、授業設定の困難さや保健室業務との兼ね合いなどで「時間が取れない」という回答が多く、「学校内の連携の問題」をあげる回答もあり、連携に関しては学校薬剤師の参加者からも「学校からの依頼、時間がもらえれば実施したい」「学校の求めがない」という回答がありました。また、「指導の難しさ」に関する回答が複数の特別支援学校の参加者から寄せられています。

今回の研修会では予想を大幅に超える参加希望があり、お断りした方々に深くお詫びをいたしますとともに、今後はこれらも踏まえ、よりよい研修会等の実施に向け、活動の幅を広げていく予定です。

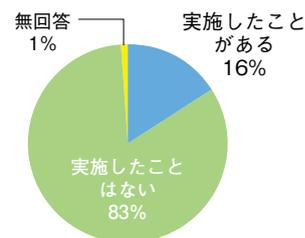


図1 保健体育科教諭・養護教諭の授業実施経験

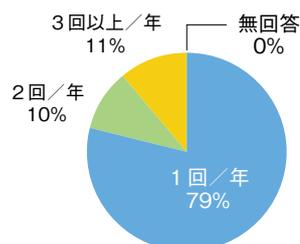


図2 「実施したことがある」回答者に尋ねた頻度

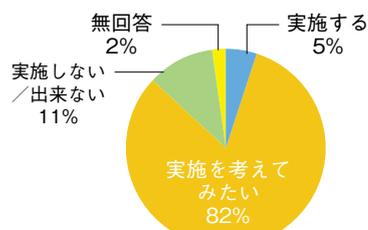


図3 「実施したことはない」回答者に尋ねた今後の実施について

(平成21年度「医薬品に関する教育」保健教育指導者研修会会場アンケートより)



**未成年者飲酒
防止教材資料**

全国の学校へ46万部を配布

小学生向け啓発ツール『どうする？どうなる？お酒のこと』

監修／(財)日本学校保健会 編集・発行／アサヒビール(株)



▲山折りしていくとぐるり元のページに戻ります

未成年者飲酒は、アルコール関連問題の中でも社会的影響の大きなテーマです。適正飲酒についての知識の普及や未成年者飲酒防止の効果的なアプローチは、学校・家庭・地域・企業が連携して取り組むことが必須だと考えられ、近年、特にその重要性が言われるようになってきました。

アサヒビール(株)が小学校5・6年生を対象に制作した未成年者飲酒防止の啓発用教材資料(印刷版)『どうする？どうなる？お酒のこと』は、2007年9月以来全国の学校で活用され、2010年1月末の時点で46万部の配布実績となりました。

この教材資料は「なぜ未成年者がお酒を飲んではいけないか」を説明したクイズ(知識の習得)と、飲酒を誘われた時の断り方(ライフスキルの向上)がテーマです。4ページ構成で、最後のページは「お友達やおうちの人と話し合ってみよう」と周囲の人たちとコミュニケーションを図りながら飲酒防止について考えられるように配慮してあります。

さらにアサヒビール(株)では2008年末、未成年者飲酒防止啓発用のWebも公開し(<http://www.asahibeer.co.jp/csr/tekisei/kids/>)、クイズや断り方のロールプレイングなどWebの特性を生かした多様な学びの場を提供しています。指導者に向けて、活用事例や授業で使えるプロジェクター用画像も掲載しています。

啓発用教材資料(印刷版)はご希望の学校に無償で提供します。教科書の副教材や学校での啓発活動などに、印刷版とWebの両方を効果的にご活用ください。



▲ Web サイトのトップページ

【ご入手方法】

- E-mail による方法 <http://www.asahibeer.co.jp/csr/> の「適正飲酒と健康」の「適正飲酒啓発ツール」のページにある〈お申し込みフォーム〉からお申し込みいただけます。
- FAX による方法 ご住所、TEL、学校名・団体名、ご担当者氏名、必要部数、をご記入の上、FAX 03-5608-5201 社会環境推進部まで
- お問い合わせ先 アサヒビール株式会社 社会環境推進部(担当：渡辺)
〒130-8602 東京都墨田区吾妻橋1-23-1 TEL 03-5608-5195

お申込み用紙 「アサヒビール株式会社 社会環境推進部」行き **FAX 03-5608-5201**

資 料 名	未成年者飲酒防止 小学生向け啓発ツール『どうする？どうなる？お酒のこと』	部 数		部
ご 送 付 先	〒 - 都道府県			
学校名・団体名				
ご担当者氏名		TEL	()	

ラジオ NIKKEI 主催

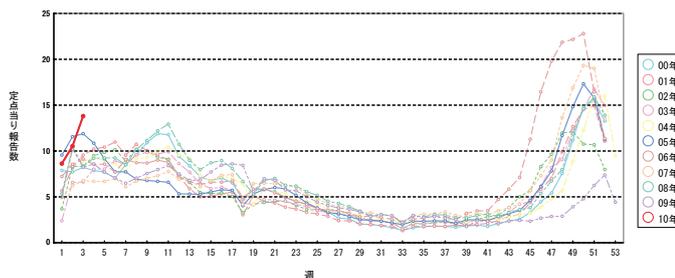
「学校生徒に対する感染症対策講座」

感染症の現状と手洗いの重要性

養護教諭等学校保健関係者を対象としたスタジオセミナーが1月28日、ラジオNIKKEI（東京・港区）で開かれました。当日は、本会の雪下國雄専務理事から学校保健安全法の「感染症の予防」に関する感染症の種類や出席停止の解説等を、国立三重病院の中野貴司氏からはノロウイルスや麻しん・風しん、インフルエンザの現状と対策の講演がありました。（ラジオNIKKEIのHPで公開中）

ノロウイルス感染1月から急増

毎年、秋から増えはじめるノロウイルスが原因の感染性胃腸炎。しかし、今シーズンは流行が遅く、今年に入って感染者が増加しました（図参照）。この要因等詳しい情報は今後の専門家の見解が待たれるところですが、学校では引き続き、感染予防の対策・指導をお願いします。



感染性胃腸炎の定点当りの報告数（過去10年間との比較）

国立感染症研究所感染症情報センター
2010年第3週（1/18～1/24）データより

The World Cancer Day 世界対がんデー UICC 公開シンポジウム

がん予防はこどもから

世界105カ国が参加し、がん克服のために活動している民間組織UICC（国際対がん連合）では、運動の一環として2月4日を「世界対がんデー」と定め、世界的な連携をもとにキャンペーンを実施。本年度は「がんも予防できる」をテーマに、「タバコをやめる」「肥満を避ける」「適度な運動」「がんの原因となる感染（肝炎ウイルス、子宮頸がんのヒトパピローマウイルス、胃のピロリ菌）を防ぐ」等、啓蒙活動を展開しているところです。

UICC日本委員会では当日、国立がんセンター国際研究交流会館で「UICC世界対がんデー公開シンポジウム」を開催、「がん予防はこどもから」をテーマに、がんに関する教育のあり方について医療、教育の専門家をパネリストに話し合われま

【主催】国際対がん連合（UICC）日本委員会

【共催】財団法人 日本対がん協会

した。中でも「喫煙」や「性行動」の抑制につながるライフスキル教育、子どもの教育が保護者さらに地域コミュニティにまで健康意識を広げられたスリランカの経験などが紹介され、知識を行動に結びつける「行動変容」の重要性ががんの教育についても有効という指摘がありました。

UICCはこれまで継続的に子どものがんに対する関心を深める活動に取り組んでいます。日本人の二人に一人はかかるといわれている「がん」。UICC日本委員会では、予防知識や検診率向上の普及啓発に向け、学校でのがんの教育をすすめていく予定です。



講 演

- 「感染症とがん—ワクチンで予防する子宮頸がんと肝がん」 田中英夫（愛知県がんセンター）
- 「たばこががん—子どもの未来の健康を守れ」 中村正和（大阪府健康科学センター）
- 「子どもの生活習慣とがん予防」 原田正平（国立成育医療センター）
- 「日本の学校教育にみる、がん予防」 衛藤 隆（東京大学大学院）
- 「世界の学校教育にみる、がん予防」 鬼頭英明（兵庫教育大学大学院）
- 「子どもが親を変える—スリランカ10年の経験から」 小林 博（財団法人札幌がんセミナー）

パネルディスカッション

「何故、がん予防は子どもからか？」 座長：北川知行（UICC日本委員会、癌研究所）、別所文雄（杏林大学）

応募児童に表彰状

環境と健康「まんが」と「アイデア」コンクール 「財団法人日本学校保健会賞」

「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の創刊 20 周年を記念して、昨年、全国の小学生を対象に実施された「環境と健康～『まんが』と『アイデア』コンクール」で、清水美佳さん（東京都江戸川区立宇喜田小学校 6 年）の作品が「（財）日本学校保健会賞」に決まり、このほど、同小学校で表彰状が手渡されました。

清水さんは、妖精エコリンを主人公に地球温暖化のしくみを簡潔に説明し、温暖化の防止に向けて、できることから始めよう——と漫画で呼びかけました。校長室で中山幹夫校長、担任の渡辺哲郎先生らに見守られながら、本会から表彰状と副賞を手渡された清水さんは、うれしそうでした。

同校からは清水さんのほか 4 人が入選。中山校長は「子どもたちが自信を持ってくれるきっかけ

を与えていただき感謝しています」と話していました。

同コンクールには、海外の日本人学校からの応募をふくめ約

500 点の作品が寄せられました。入賞・入選作品は「OTSUKA 続まんがヘルシー文庫 3～環境と健康の巻」（3 月末日発刊）に、漫画家の作品とともに掲載される予定です。

同文庫は、社団法人日本医師会と本会が監修し、大塚製薬（株）が毎年、発行。全国の小学校などへ寄贈されています。



学校保健ポータルサイト実用例の紹介 情報収集のほかにも 活用ください

学校保健ポータルサイト (<http://www.gakkohoken.jp>) では、研修会や各種イベント情報のほかに学校保健に関する出版物、子どもの健康に関する情報を提供しています。今後、専門的なスキルアップにつながるコンテンツも構築していきますので、ご期待ください。

今回は、[ご意見・ご感想] コーナーの紹介です。これからも子どもたちの安全・安心につながるご意見などお寄せ下さい。



<保健室にトイレを> 岐阜県 一般主婦

腸の弱い子供は頻繁にお腹をこわします。学校にトイレがあっても、特に男子は BOX に入るのなかなか勇気がいります。大人でも臭いがしたり、長時間にわたる場合などはバツが悪いものです。子供の場合はいじめにも繋がりますし、汚いあだ名など付けられ、長引けば、心の傷となって残ります。それがわかっているので、子供達は苦しい思いをして我慢してしまいます。ひやかさないよう指導することも大切ですが、ひやかす場面を減らすというものの対処の一つの



方法だと思えます。

どうぞ、全国の保健室にトイレを設置して、子供が安心してお腹をこわせるようにしてあげてください。

それにより、子供の体調もより細かく把握できますし、子供からの相談もしやすくなります。

また、授業中トイレに行きたくなった場合にも「保健室へ行って来ます」と申し出れば、トイレに行けます。そうすれば、子供達も、もし授業中にお腹が痛くなったらどうしようという恐怖を回避できます。

現在トイレのない学校はたくさんあると思います。また、早急には設置できない、あるいは設置する見込みのない学校もあると思います。そういった学校でも、入学時に、親子とも対象に「保健室へ行って来ます。」と言えば、授業中でもトイレに行けると指導・案内をしてあげてください。トイレの後に保健室へ報告に行くようにすれば良いのです。

虎ノ門 (102)

平成20年4月、「学校保健安全法」・「学校環境衛生基準」が大臣告示と同時に施行され、これらを遵守し学校運営を行う事となった。

“学校保健”の歴史は長く、関係する各位には十分に理解されている状況にあるが、新たな“安全”は過去に痛ましい事件が学校を舞台に多数発生し話題となっただけでなく、大麻の栽培・販売・授受をはじめ麻薬に絡む事犯等も報道されるなど、一部ではあるが、児童生徒・学生の安全に対する意識の低さが危惧されるようになり“安全”の文言が入ってきたとも考える。

学校保健・安全は、学校関係者（大人）の目線で見・確認・実施する事は重要であるが、同時に児童生徒の目線で見ると思ってもよらない問題点も多く発見出来る事から、これらを学校安全計画を立案時等、協議の場に学生を入れるのはいかがであろうか。

“学校環境衛生基準”については、現在文

部科学省において“新・学校環境衛生管理マニュアル”を作成中であり、その解説書はマニュアルが配布後に発刊される予定である。

本基準は学校・学校設置者が児童生徒の学習環境を安全で快適にするための基準であり、常に基準内にある事を求められている。この基準を確認するために、学校内においては学校職員が学校薬剤師等の指導の下、意識を持って日常点検を行い記録する。定期検査を行う学校薬剤師や専門業者は、学校に指導・助言し必要に応じて臨時検査を行う必要がある。そして、これらの記録は保存義務があり期間が定められている。

大臣告示後、1年を過ぎようとしているが、学校・学校設置者の意識が希薄な感を持つのは県・市区町村の財政に関してだけであろうか、よく検討してみる必要がある。

今後、“くすりの正しい使い方教育”“薬物乱用防止教育”の推進等取り組む課題は多い。

(編集委員 田中 俊昭)

編 集 後 記

今年度で8年目となる本会の健康教育推進学校表彰。表彰校はそれぞれ特徴のある学校保健委員会活動を実施し、保護者や地域とうまく連携しています。

本誌でも今年度は「学校保健と連携」を年間テーマに各号で様々な連携を取り上げてきました。今号では精神科ほか四科の専門医の方々から学校と連携する必要性などそれぞれの立場でご執筆していただきました。

その中で気になるのは、専門医を必要とする認識の格差が連携の難しさにつながっているということです。学校が必要としていても頼める人がいない。専門医が必要を感じていても学校が受け

入れる体制にないなど、これらの課題を解決するためには多くの事例やそれを基にした連携システムの確立が急がれるのですが、これは本会だけでなく多くの関係機関や団体との協力があってこそ進んでいくものとおもいます。

しかし、実際に子どもと関わっているのは学校です。そこで、それぞれの学校に合った連携の在り方を考える機会としても、学校保健委員会は役立てられるのではないのでしょうか。すでにそれぞれの専門分野で学校や地域の中で活動されている方々もいらっしゃいます。是非、学校保健委員会活動の充実にもつなげていただきたいと思います。(編集委員長 雪下 國雄)

ライフスキル教育先進国訪問の旅

海外「学校保健」教育事情視察旅行 オーストラリア

(財)日本学校保健会では、平成22年度特別企画として、海外「学校保健」教育視察旅行を企画しています。(※正式な募集は会報「学校保健」282号5月発行号の予定)

- ① 視 察 目 的：シドニー大学でのライフスキル教育視察(1日)
- ② 予 定 日 程：平成22年8月16日(月)4泊6日 <8/16(月)20:00 成田発～8/21(土)17:05 成田着>
- ③ 旅 行 費 用：20万円～25万円以内
- ④ 企 画・実 施：JTB 首都圏川口支店
- ⑤ 訪 問 団 団 長：川畑徹朗(神戸大学大学院人間発達環境学研究所教授)

小学校対象 加工用トマト「凛々子(りりこ)」の苗プレゼントのお知らせ

カゴメ株式会社では、1999年より全国の小学校にトマトの苗をプレゼントしています。子どもたちの「命への関心」と「感謝する心」をはぐくむ食育教材として、毎年約3,800校で栽培されています。

1校につき加工用トマト「凛々子」の苗を96本または48本をお送りします。お申し込み多数の場合は先着順となります。苗のお届けは4月中旬～5月中旬、納品日指定はできません。当選校には、カゴメ「トマトの苗」事務局よりFAXにてお届け日をお知らせいたします。

お申し込みは、①学校名②担当者名③住所④電話番号⑤FAX番号⑥希望苗数(96本または48本)をご記入の上、下記FAXまでお送りください。ホームページからもお申し込みいただけます。詳しい品種特長などは、ホームページをご覧ください。

- F A X 送 信 先 : 03-5148-2157 カゴメ「トマトの苗」事務局 学校保健会 係
- お問い合わせ先 : 0120-047-831 (受付時間 : 9 : 30 ~ 17 : 00 土日祝日を除く)
- ホームページ : <http://www.kagome.co.jp/tomato-nae/>



Otsuka Academy

2010年開催校募集

たくさんのご参加を
お待ちしております!

ポカリスエットは
財 日本学校保健会
推薦商品です

無料 公開スクールセミナー

主催:大塚製薬株式会社 後援:(財)日本学校保健会 (財)日本体育協会 (財)日本中学校体育連盟 運動と体温の研究会
2001年のスタート以来、すでに全国の小・中学校約1600校・30万人の方が受講され、好評をいただいている
公開セミナーの2010年度の開催校を募集いたします。テーマは「外に出て汗をかこう 元気に過ごせる水分補給」です。
詳しくは差し込みチラシをご覧ください(お申込み受付は3月から10月まで。実施は4月から12月11日までです)。



お問い合わせ先 **大塚アカデミー事務局**

〒102-0075 東京都千代田区三番町24番地 林三番町ビル4階

TEL:03-5275-6838

お問い合わせは、土・日・祝日を除く1000~1700まで



財団法人日本学校保健会推薦

MiniAnne



あなたにしかできない ことがあります。

www.CPR-AED.jp

検 索

◎学校法人教育委員会専用注文書はこちらからダウンロードできます。



Wide
中学生の約 15%

Middle
中学生の約 71%

Narrow
中学生の約 13%

Just Evidence Shoes

現在、多くの子ども達が足に合わない靴を履き、足にトラブルを抱えている事がわかりました。JESは、足計測データを分析し、少しでも多くの子どもにフィットする「靴型」の設計をはじめ、幅の選べる学校シューズなどの研究を進め、児童生徒の「足を育むJESシューズ」の開発と、「足元からの健康教育“足育”」活動を推進しています。

JES 足と地球の健康を考えよう
日本教育シューズ協議会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-3-4 TEL.03-3862-8684 FAX.03-3862-8632